

神戸生物クラブによる押部谷・明石川の観察会で確認された水生生物

青山 茂 (ひとはく地域研究員・神戸生物クラブ)

はじめに

神戸生物クラブは昭和 31 (1956) 年に大丸百貨店の神戸生物同好会を前身として設立され、およそ 70 年近く活動していた生物関連団体である。主な活動として野外での生物採集や標本づくりがある。運営は小学校の教員が中心となっており、兵庫県生物学会会員など生物の専門家が指導員として協力していた。神戸市教育委員会の後援を受け、会員は小学生で、保護者同伴で参加してもらっていた。一回の採集会に 3000 人の児童が参加したこともあった。このように歴史のある生物関連団体であるが、指導員の世代交代が進まず、さらに新型コロナウイルス禍での活動自粛などによって現在休会中で、このまま自然消滅する可能性が高い。そこで発表者が説明を担当していた押部谷・明石川観察会で確認された水生生物を記録しておく。

調査場所と方法

2014 年を除く 2011 年～2017 年の間、毎年 5 月に開催される当該観察会において、集合場所の神戸電鉄押部谷駅から目的地の明石川法面にあるスタンドまでの農道・水田・水路および明石川を調査場所とした。参加者である小学生が採集し、プラケース等に収容した生物をメモし、一部を写真撮影して記録した。なお、発表者が直接採集することはなかった。

結果と考察

	和名
爬虫類 3種	ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシippiaアカミミガメ
両生類 8種	アマガエル、トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル、ツチガエル、ウシガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、セトウチサンショウウオ
魚類 12種	フナ属の1種、カワムツ、オイカワ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、ナマズ、ドンコ、カワヨシノボリ、シマヒレヨシノボリ、ミナミメダカ、ブルーギル
甲殻類 4種	アメリカザリガニ、テナガエビ、スジエビ、カワリヌマエビ属の1種

は虫類 3 種、両生類 8 種、魚類 12 種、甲殻類 4 種を確認した (表)。魚類について、少し上流の明石川と木見川の合流点付近で神戸市環境局等が行った 1979 年の調査結果と比べると、本研究ではタモロコ、スジシマドジョウ、シマドジョウが見られなかった。後のドジョウ 2 種は現在の分類ではチュウガタスジシマドジョウとオオシマドジョウと考えられ、この周辺では絶滅した可能性が高い。なお、本研究の観察会では元々調査という観点がなく、写真撮影を怠っていたことが反省点である。

2018 年頃に本調査地では河川改修が行われ、今後の観察会の実施が難しいという意見がでた。後に現地に行ったところ、河床が全体的に掘り下げられ、水深の確認ができなくなっていた。また、魚種によっては移動が阻害される落差工も多く、魚道を設置するなどの対策がなされないと今後も絶滅する種が出ると考えられる。

参考文献

本研究内容は以下で報告済みである

青山 茂 (2023) 神戸生物クラブとのかかわり. 兵庫陸水生物, 74: 印刷中.

青山 茂 (2023) 神戸生物クラブの押部谷・明石川の観察会で確認された水生生物. 兵庫陸水生物, 74: 印刷中.